

支持的基盤のある学級づくりにつながる道德授業の 在り方に関する実践的研究

高知大学大学院総合人間自然科学研究科教職実践高度化専攻
四万十町立大正中学校

指導教官 森 有希
教諭 平林 香里

1 はじめに

(1) 研究課題

道德科の学習において、生徒は道德的価値の理解を基に道德的な課題に対する自分なりの考えを表明することはできるのに学校生活における道德的実践につながらないのはなぜか。その要因には、学んだ道德的価値を安心して実行できる雰囲気学級に作られていないことがあるのではないかと考えた。学んだことが道德的実践につながるためには、生徒が主体的に支え合い、高まり合うとともに、思いや考えを伝え合い認め合うことのできる学級（以下「支持的基盤のある学級」）の基盤が必要である。そして、その支持的基盤のある学級を形成していくためには、互いを思いやることのできる道德性を養っていく必要がある。つまり、道德教育を通して道德性を養い、学級に支持的基盤を形成していくことで生徒は道德的価値を実行に移すことができるのであり、これらはスパイラルな関係にもあると考えた。そこで、本研究では、この支持的基盤のある学級づくりにつながる道德授業に着眼した。

(2) 理論的背景

支持的基盤のある学級づくりのために、互いを思いやることのできる道德性は欠かせない。ロバート・L・セルマンは、この道德性の育成に必要な力として、「役割取得能力」（相手の立場に立って心情を推し量る能力）を提唱し、多様な視点で考え、話し合うなどの活動によってその能力を発達させると主張した。本研究では、このセルマンの理論を背景として言語活動を生かした道德授業を構想する。

2 研究の目的

生徒の道德的実践のためには、支持的基盤のある学級が基盤として必要であり、その支持的基盤のある学級をつくるためには、互いを思いやることのできる道德性が必要である。また、逆に、道德的実践は、学級に支持的基盤を形成し、生徒はその道德的環境の中で道德性を養っていく。つまり、道德的実践を可能にする支持的基盤のある学級の形成と互いを思いやることのできる道德性の育成は、スパイラルな関係にあり、この関係の鍵となるのが道德性を育成する道德授業であると捉えている。そこで、本研究では、支持的基盤のある学級づくりのために有効な道德授業とはどのようなものなのかを実践的研究から明らかにしたいと考え、研究の目的を、支持的基盤のある学級づくりのために有効な道德授業の在り方を明らかにすることと設定した。その際、セルマンの論を参考に、多様な視点で考え、話し合うなどの言語活動によって相手の立場に立って心情を推し量る能力、いわゆる人を思いやることのできる道德性を高めていく学習に取り組んでいくこととした。研究のフィールドとしては、筆者が中学校教員であり、中学校において授業実践を行うことから、中学校を対象とした。

なお、「支持的基盤のある学級づくりのために有効」であるということについては、以下の支持的基盤のある学級の定義に基づき、生徒が「主体的に支え合い、高まり合う」「思いや考えを伝え合い認め合う」意識を高めることができるという点で有効性を把握するようにした。

3 研究内容

(1) 2018年度（1年目の研究）「言語活動を生かした道德授業」

ア 「支持的基盤のある学級」の定義づけと尺度の設定

支持的基盤のある学級とは、「認め合い、支え合い、高め合う」要素が必要であると考えた。なぜなら、認め合う場面があることで自分自身が安心してそこにいることができると感じられるからであり、学級の中で自分の存在を確認するために、互いに認め合うことが大切だと考えるからである。また、困った

ときや悩みがある時に助けしてくれると思えるような支え合いも必要である。そして、発達途上の生徒にとって、互いに切磋琢磨し高め合い、その喜びを感じ合う関係も重要である。そのような考えから、生徒が「主体的に支え合い、高まり合う」とともに、「思いや考えを伝え合い認め合う」ことのできる学級を「支持的基盤のある学級」と定義した。そこには、「認め合い、支え合い、高め合う」関係が内在している。そうした関係によって、生徒は、他者を意識し、人の気持ちを分かろうとして人間関係を築き、安心して過ごせる学級・学校を作っていく。この「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」意識は、支持的基盤のある学級における生徒一人一人の思いとして欠かせないものだと考えている。

この支持的基盤のある学級については、本研究の効果把握に欠かせない要素であるため、先行研究の調査を基に「支持的基盤のある学級」の意識に関する尺度を設定することとした。そこで、調査を実施して因子分析を行った結果、「支持的基盤のある学級」に関して、2因子が見いだされた。この2因子について、一つを「学級の連帯感」と命名し、もう一つを「自己開示・安心感」と命名した(表1)。これは、本研究における支持的基盤のある学級の定義である「主体的に支え合い、高まり合う」こと、また、「思いや考えを伝え合い認め合う」ことにそれぞれ対応するものである。

表1 「支持的基盤のある学級」尺度

I 学級の連帯感 ($\alpha=.894$)	II 自己開示・安心感 ($\alpha=.870$)
・行事等のクラス活動に一生懸命取り組もうと思う	・個人的な問題も安心して話せると思う
・誰もがクラス全体のことを考えている	・自分達の気持ちを気軽に言い合えると思う
・このクラスはお互いにとっても親切だと思う	・先生がそばにいても遠慮なく話せると思う
・友達同士助け合おうと思う	・自分達の気持ちを素直に先生に見せることができると思う

イ 支持的基盤のある学級と道徳授業の関連

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」ことと道徳の授業との間にはどのような関係があるのかについては、平成30年6月にA中学校の生徒(49名)に実施した道徳意識調査(県作成)の項目から検討した。A中学校の道徳意識調査における、道徳の授業の充実と人間関係に関する意識の項目の相関係数を算出した結果、「道徳の授業では、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えている」と、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」ことの項目に相関があることが分かった。その結果から、「自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考える道徳の授業」を行うことは、「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」ことに何らかの働きをもつものではないかということが推察された。そこで、道徳授業で、自分の考えを伝えたり、他の人の考えを聞いたりしながら、自分のこと(生き方)についてよく考えるということ、つまり、伝え、聴くというような言語活動の充実を図り、生徒が考えを深める道徳授業づくりをしていくことで、支持的基盤のある学級につながる意識を生徒がもてるのではないかと考えた。

ウ 言語活動を生かした道徳授業の実践

支持的基盤のある学級と道徳の授業との関連を踏まえ、「考えたくなる問い」「生徒の活動時間の確保」「伝え・聴く技能の向上」「教師が生徒を見守る・認める・励ます」ことを意識した言語活動を意識した道徳授業づくりを行い、実践した。その結果、言語活動を生かした道徳授業を通して、生徒は自分との関わりで道徳的価値に関する考えを深めていくことができることが分かった。しかし、課題として、自分との関わりで課題を捉え考えることはできるものの、偏った視点でしか物事を捉えることができない生徒もおり、視点の広がりが少ないことも分かった。また、更に道徳性を高めるためには他教科との関連が重要であり、道徳授業で学んだことを生かす場の設定や価値づけを様々な教育活動の中で行っていくことが重要であることも改めて捉えられた。

2018年度の実践研究結果からは、支持的基盤のある学級につながる道徳性を育成するためには、「考えたくなる問い」「生徒の活動時間の確保」「伝え・聴く技能の向上」「教師が生徒を見守る・認める・励ます態度をもつこと」等をさらに意識するとともに、様々な視点で考えを深めていけるような、言語活動を生かした道徳授業を行っていく必要があるという結論に至った。また、支持的基盤のある学級づくりにつなげていくためには、道徳の授業だけでなく日々の学級活動やその他の教育活動も重要であり、

特別活動や他教科と道徳授業とを関連させた単元計画を立案・実践する必要があるということが分かった。

(2) 2019年度(2年目の研究)「言語活動を生かした道徳授業を要とする総合単元的な道徳学習」

1年目の研究の成果と課題を踏まえて、2年目の研究では、道徳授業とその他の教育活動との関連を図った「総合単元的な道徳学習」に着手し、言語活動を生かした道徳授業を要とする「総合単元的な道徳学習」を実践して、その効果を検証し、支持的基盤のある学級づくりのために有効な道徳授業の在り方を明らかにすることとした。そこで、まずは、支持的基盤のある学級と道徳授業との関係、また道徳授業において言語活動の充実を図るための方途を探ることとして調査研究を行った。

ア 調査研究「道徳授業に関する状況と指導についての調査」

(7) 方法

調査対象:高知県内の小・中学校の教員76名(小学校39名、中学校37名)

調査時期:2019年4月～7月

調査方法:県内小・中学校の研修会において質問紙調査票を配布し、回答を依頼。

調査内容:(問1)支持的基盤のある学級づくりのために道徳授業において重視すべきこと

(問2)道徳授業における言語活動の実施状況

(問3)道徳授業の中で言語活動を効果的に行うために必要なこと

(問4)道徳授業の中で言語活動を実施するにあたっての課題

(問5)道徳授業の中で言語活動を実施することで得られる効果

回答方法:(問1)選択肢の中から当てはまるものを全て選択。

(問2)「5 毎回取り入れる」「4 よく取り入れる」「3 時々取り入れる」「2 あまり取り入れない」「1 全く取り入れない」(5件法)の中から一つ選択。

(問3～問5)「5 とてもそう思う」「4 そう思う」「3 どちらとも言えない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」(5件法)の中から一つ選択。

それぞれ選択肢以外のことがあれば、「その他」として記述で回答を求める。

分析方法:(問1)それぞれ選択された項目の割合を求める。

(問2～問5)選択肢の「5～1」をそれぞれ「5～1」に点数化し、各質問項目の平均値や標準偏差を求める。その結果について、平均4.5以上を「非常に高い」、4以上を「高い」、3未満を「低い」と判断する。

(4) 結果

問1に関しては、80%以上のものが、「意見を伝えたり、聴いたりする活動を充実させること」(89.4%)、「児童生徒理解」(81.8%)であった。

問2に関しては、「ワークシートに書く活動」(4.61)が非常に高かった。また、「ペアやグループでの意見交流」(4.43)も高くなっていた。

問3に関しては、「発問や問い返しの工夫」(4.83)が非常に高かった。また、「学級経営の充実」(4.07)、「意図的指名の工夫」(4.00)も高くなっていた。

問4に関しては、「学習意欲を高める指導の工夫」(4.60)が非常に高くなっていた。また、「児童生徒の人間関係」(4.40)、「時間配分」(4.30)、「他教科等と連携した児童生徒の表現の向上」(4.22)、「言語活動の多様な指導方法に関する情報の取得」(4.01)も高くなっていた。

問5に関しては、「自分の意見や思いを伝えようとする意欲が高まる」(4.59)、「人の意見を聴こうとする意欲が高まる」(4.55)が非常に高く、「コミュニケーション能力・語彙力が高まる」(4.46)、「学級内での関わりが増える」(4.45)、「問いに関する考えを深めようとする」(4.34)、「道徳授業以外でも授業全般に対する学習意欲が高まる」(4.20)が高かった。

(5) 考察

これらの結果より、教員は、支持的基盤のある学級づくりのためには、特に「意見を伝えたり、聴い

たりする活動の充実」や「児童生徒理解」が必要だと感じていることが分かった。しかしながら、「意見を伝えたり、聴いたりする活動」として、多様な言語活動が十分になされているとは言えない状況であることも分かった。こうした状況を打破し、「言語活動の充実」を図っていくためには、「児童生徒の人間関係を深める学級経営の充実」を土台としながら、学習意欲を喚起する「発問や問い返しの工夫」、多様な指導を生かした「伝え・聴く活動の充実」を行っていくことが重要であることがうかがえた。また、道徳授業の中で言語活動を充実させていくことで、コミュニケーションへの意欲と能力が高まり、学級内での関わり合いが促進されていく効果があると多くの教員が感じているということも捉えられた。

イ 実践的研究「総合単元的な道徳学習」

(7) 研究の構想

1年次の研究から、支持的基盤のある学級づくりのためには、道徳授業だけでなく、その他の教育活動との関連を図った「総合単元的な道徳学習」が必要であるとの結論に至った。また、調査研究から、「支持的基盤のある学級づくり」のためには、「言語活動の充実」が欠かせない要素の一つであることを再確認し、そこに「児童生徒の人間関係を深める学級経営の充実」を土台として、学習意欲を喚起する「発問や問い返しの工夫」、多様な指導を生かした「伝え・聴く活動の充実」が必要であることも捉えられた。こうしたことをもとに、2年目の研究では、支持的基盤のある学級づくりのために必要な「児童生徒の人間関係を深める学級経営の充実」として、「教師が生徒を見守る・認める・励ます態度を持つこと」を重視して取り組むことにした。また、「言語活動の充実」として、学習意欲を喚起する「発問や問い返しの工夫」、多様な指導を生かした「伝え・聴く活動」を行っていくこととした。この「言語活動の充実」においては、1年目の研究から引き続いてセルマンの論を参考にして、多様な視点で考え、話し合うなどの言語活動によって人を思いやることのできる道徳性を高めていく学習に取り組んでいくこととした。2年目の実践的研究の構想を示したものが図1である。

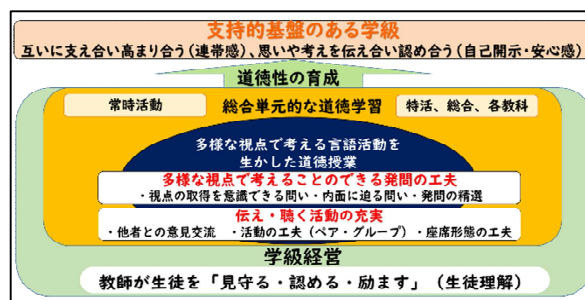


図1 研究構想図

(4) 方法

対象：A中学校第2学年 11名(男子5名・女子6名)

期間：2019年4月～12月

a 総合単元的な道徳学習

人間関係づくりを意識し、1学期は「仲間づくり」、2学期は「私たちの郷土」をテーマとして、多様な視点を意識し、道徳授業と他の教育活動との関連を図った「総合単元的な道徳学習」を実践した。授業実践を行う2年生の総合単元的な道徳学習計画は、表2、表3のとおりである。特別活動では、月に1回、支持的基盤のある学級づくりにつながるよう、SGE(構成的グループエンカウンター)を取り入れた授業案を学級担任と作成・検討し実施することとした。道徳科では、1学期は「仲間づくり」というテーマから「友情、信頼」「相互理解、寛容」「向上心、個性の伸長」「公正、公平、社会主義」等の内容項目を中心に授業実践を行い、2学期は「私たちの郷土」というテーマから、「郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する心」「社会参画、公共の精神」などを中心に授業実践を行うようにした。

表2 総合単元的な道徳学習計画(1学期)

テーマ	仲間づくり(互いに理解し合い、認め合い、支え合い、高め合う学級を創ろう)			
月	4月	5月	6月	7月
道徳授業 13時間	※自分、相手、第三者、社会的集団といった多様な視点から考え、話し合う活動を重視 (オリエンテーション)			
	・「自分」を諦めない ・挨拶はスキンシップ ・五月の風-カーナー	・五月の風-ミカー ・コトコの涙 ・自分って何だろう	・虎 ・さかなのなみだ ・ヨシト ・あかり	・リスペクトアザース ・ハイタッチがくれたもの ・ライバル
特別活動	学級開き、SGE	修学旅行の反省、SGE	生徒総会、SGE	学期の振り返り、SGE
総合的な 学習の時間	修学旅行事前学習 大正 Biz School	修学旅行実施	修学旅行まとめ	修学旅行の発表
常時活動	朝・夕の会、班活動、係活動、掃除、1分間スピーチ 等			

表3 総合単元的な道徳学習計画(2学期)

テーマ	私たちの郷土(自分達の住んでいる地域に関心を持ち、これからの発展のために、地域の一員として主体的に地域に関わろうとする態度を育もう)			
月	9月	10月	11月	12月
道徳授業 15時間	※自分、相手、第三者、社会的集団といった多様な視点から考え、話し合う活動を重視 ・自分の弱さと戦え ・ネット将棋 ・避難所にて ・門掃き	・和樹の夏祭り ・タッチアウト ・行動する建築家坂茂 ・よみがえれ、えりもの森	・さよならホストファミリー ・包む ・海と空-樫野の人々- ・さいちゃん	・初心 ・樹齢七千年の杉 ・最後のパートナー
特別活動	SGE、体育祭の取組	生徒会役員選挙	文化祭の振り返り	学期の振り返り
総合的な学習の時間		文化祭の準備	文化祭、郷土料理作り	山の学習(シイタケの菌打ち)
常時活動	朝・夕の会、班活動、係活動、掃除、1分間スピーチ 等			

b 言語活動を生かした道徳授業(期間中 28回)

「道徳授業に関する状況と指導についての調査」の結果を基に、子ども達が様々な立場(一人称、二人称、三人称)から考え、全体で討論したくなる問いや活動を取り入れた。また、生徒の人間関係の把握や学習意欲を喚起する展開を基盤として、多様な視点で考えることのできる発問や活動、考えを伝え・聴く活動を生かした道徳授業を実践した。例えば、自分、相手、第三者、社会的集団といった多様な視点で考えることのできる発問や役割演技、ペアやグループによる意見交流などを各授業で取り入れた。

【視点取得を促進する道徳学習活動モデル①(図2)を活用した道徳授業指導案】

- 1 主題名 「誠実な心で」(自主、自律、自由と責任【A-1】)
- 2 教材 「タッチアウト」
- 3 ねらい 自分の行動が及ぼす結果とその責任について深く考え、自分自身の誠実な心を見つめ直すこととする意欲を高める。
- 4 学習指導過程

学習活動と主な発問(○)・補助発問(●)	
導入	1、事前のアンケート結果を確認し、嘘の定義を考える。
展開	2、教材のあらすじを確認し、話し合う。 (1)自分がぼくの立場ならどうするか意思表示し、理由を述べる。質問し合う。 ○あなたがぼくなら落球のことを言いますか？言いませんか？(ネームカードを黒板に貼る) ●自己満足のために言うの？ ●誰も気づいてないよ？言わなかったら勝つんだよ？ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">ぼくとチームメイトのそれぞれの立場に立って考える(視点取得)</div>
	(2)自分がチームメイトの立場ならどうしてほしいか意思表示し、理由を述べる。質問し合う。 ○あなたがもしチームメイトの立場なら言った方がいいと思いますか？言わない方がいいと思いますか？(ネームカードを黒板に貼る) ○「言う」「言った方がいい」もしくは「言わない」「言わないでほしい」という考えは、それぞれ何を大切にしているのか？
	(3)ぼくがこんなにも悩まなければならないのはなぜかを考える。 ○言わない、言わないでほしいという嘘(真実をごまかしている)は良い嘘なのか、悪い嘘なのか。(意思表示をして理由を言う) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">アンケート結果を基に、これは良い嘘なのか悪い嘘か考える(内面に迫る問い)</div> ●良い嘘ならなぜこんなに苦しむ必要があるの？ ●悪い嘘というが佐藤君は気づいていないし、見送りにまで来てくれているのに、ぼくがこんなにも悩まなければならないのはなぜ？
終末	3、「自分自身の誠実さと向き合った経験やその時の思いを書いてみよう」「今日の学習で学んだこと考えたことを書いてみよう」どちらかを自分で選んで書いて発表する。

※本実践は、本研究で見いだした「登場人物への自我関与」の活動モデル①を使用している。

c 検証方法

検証1:各回の道徳授業における「道徳授業アンケート」調査によって、授業が言語活動を生かした道徳授業として機能していたかどうかを検証する。

検証2：4月(pre)、12月(post)に「道德学習意欲」と「支持的基盤のある学級」に関する調査を実施し、「総合単元的な道德学習」と「支持的基盤のある学級」との関係について統計解析ソフトSPSS Statistics 25 for Windowsを用いて検証する。

検証3：生徒の道德ファイルやワークシート、インタビュー等から補完的に検証する。

(ウ) 結果と考察

検証1として、「道德授業アンケート」の結果は、各回の授業平均が4.5以上(5点満点)と9割を超えており、道德授業において言語活動が機能していたことが示唆された。また、多様な視点で考えることのできる発問や活動、考えを伝え・聴く活動の工夫を行うことで、生徒が自分なりに考えを深めることができる道德授業が展開されたと考えられる。

検証2として、「道德学習意欲」と支持的基盤のある学級に関する「学級の連帯感」「自己開示・安心感」の各因子尺度を得点化して、Wilcoxonの符号付順位検定により検討した結果、「道德学習意欲」($Z = -2.18, p = .029, r = .657$)「学級の連帯感」($Z = -1.98, p = .048, r = .597$)「自己開示・安心感」($Z = -2.53, p = .012, r = .762$)の全ての因子で4月に比べて12月の得点が有意に高くなっていた。また、「総合単元的な道德学習」を実施した2年生と、実施していない1年生のそれぞれの変化量をMann-WhitneyのU検定により比較した結果、「道德学習意欲」($U = 23.50, p = .046, r = .447$)「学級の連帯感」($U = 14.00, p = .006, r = .609$)「自己開示・安心感」($U = 13.00, p = .005, r = .624$)の全ての因子で2年生の方が有意に高く変化していた。この結果から、多様な視点で考える言語活動を生かした道德授業を要とする「総合単元的な道德学習」の実践によって、生徒は道德の学習意欲を高め、支持的基盤のある学級を形成していくようになることが示唆された。

検証3では、4月から12月までの自分自身の変化に関する生徒の意見として「自分を客観的に見られるようになった」「相手の立場に立って考えるようになった」「相手のことを分かっていくようになった」などの発言があり、4月と比較すると、より具体的に自分事として考えたり、他者を理解しようしたり、視野を広げて物事を捉えようとした様子が見られた。また、道德の授業後の感想では、「自分の考えを持ったり、深めたりできるようになった」や「友達や先生に気軽に思いを伝えられるようになった」「相手のことを考えられるようになった」など、自分自身の思考の深まりに気付くものや、自己開示ができるようになったこと、安心感が生まれたことについて書かれてあるもの、他者への配慮や思いやり、視点の取得が示されるものがあった。

検証1と検証3を併せて考察すると、道德授業においては学習内容を自分事として考えることができるようになり、自身の生活や生き方を振り返って考えを深めることができるようになっていくことが分かった。また、他者の意見を聴くことで自分の考えを深めるとともに、他者を理解し、どう関わっていくことがよいのかなど視野を広げて考えることができるようになっていくことが分かった。

学級全体の傾向としては、検証2の4月と12月の「道德学習意欲」「学級の連帯感」「自己開示・安心感」尺度の変化から、多様な視点で考える言語活動を生かした道德授業を要とする「総合単元的な道德学習」の実践によって、支持的基盤のある学級が形成されてきていることが示唆された。

検証2と検証3を併せて考察すると、自分中心の考え方から、全体や周囲、互いの関係を意識した考えができるようになり、協力することや仲間と一緒に何かをすることに對する抵抗感が減ってきていることが分かった。更に、相手のことを考えたり、他者の考えを受け入れたりすることができるようになっていくことも分かった。

以上の結果を総合的に考察すると、道德学習においては、多様な視点で考えることのできる発問の工夫、考えを伝え・聴く活動の充実などにより言語活動を生かしていくことで、他者の考えを聴こうとする意欲を高め、より広い視野で物事を捉えていくようになる。また、他者の考えを聴くことで、更に自分自身との関わりで考えを深め、実践意欲を高めていくようになることが示唆された。

多様な視点で考える言語活動を生かした道德授業を要とした「総合単元的な道德学習」によって、一貫して一貫した指導が可能となり、生徒は「道德学習意欲」を高め、周囲のことを考えようとする道德

性を育むとともに、互いに支え合い、高まり合う「学級の連帯感」、思いや考えを伝え合い、認め合う「自己開示・安心感」を高め、支持的基盤のある学級を形成していくようになって考えられた。

4 まとめ

多様な視点で考える言語活動を生かした道徳授業を要とした「総合単元的な道徳学習」は、支持的基盤のある学級づくりのために有効であることが示唆された。また、多様な視点で考える言語活動を生かした道徳授業としては、視点取得を促進する発問の工夫、考えを伝え・聴く活動の充実を図った学習活動の有効性もうかがえた。こうした研究成果を基に、支持的基盤のある学級づくりのために有効な道徳授業の一つの方法として、視点取得を促進する道徳学習活動モデルを以下に提示する。

この活動モデルを取り入れた道徳授業の実践から、視点を広げ、互いを思いやることのできる道徳性を育むこと、また学級に支持的基盤を醸成することにつながるということが示唆された。

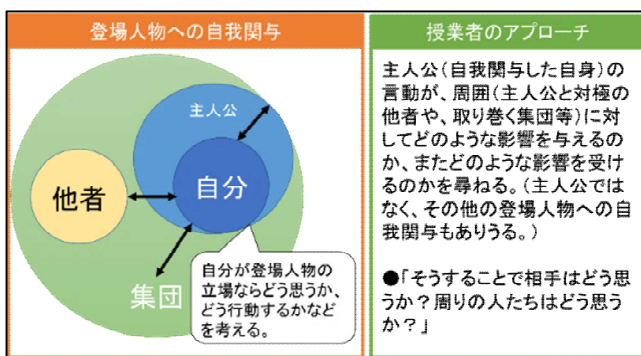


図2 道徳学習活動モデル①
「登場人物への自我関与」

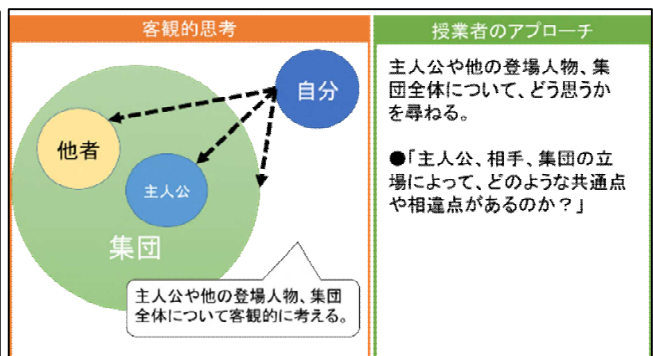


図3 道徳学習活動モデル②
「客観的思考」

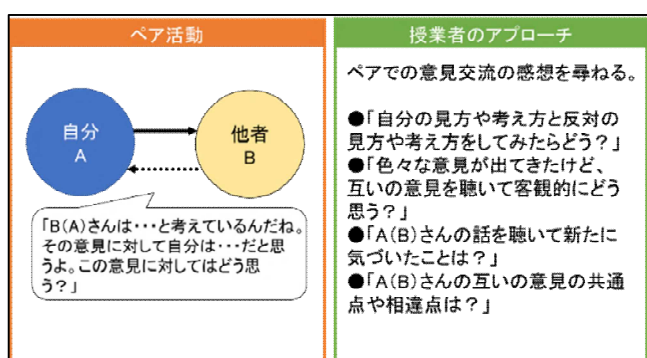


図4 道徳学習活動モデル③
「ペア活動における意見交流」

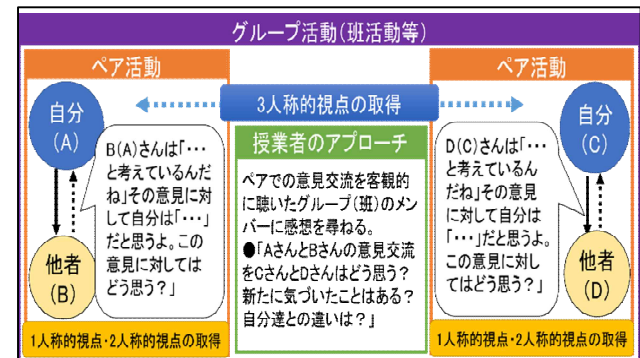


図5 道徳学習活動モデル④
「グループ活動における客観的意見交流」

〈引用・参考文献〉

- ・伊藤亜矢子 宇佐美慧(2017)「新版中学生用学級風土尺度 (Classroom Climate Inventory; CCI) の作成」教育心理学研究第 65 巻 第 1 号
- ・鈴木由美子 森川敦子 江玉睦美(2011)「対人理解を促進する道徳教育の方法-セルマンの社会的視点取得理論に着目して-」学習開発学研究 4 号
- ・本間優子 内山伊知郎 (2017)「役割取得能力が学校適応に影響を及ぼすプロセス」心理学研究第 88 巻 第 2 号
- ・新川靖(2016)「効果的な道徳教育のための指導方法についての研究～道徳学習プログラムの実践をもとに～」『関西福祉大学発達教育学部研究紀要』2 巻
- ・金田健司「学校生活における道徳教育」高橋勝編著『道徳教育論』培風館(2011)
- ・日本道徳性心理学研究会編著『道徳性心理学 道徳教育のための心理学』北大路書房(1992)
- ・渡辺弥生編集『VLF による思いやり育成プログラム』図書文化(2001)

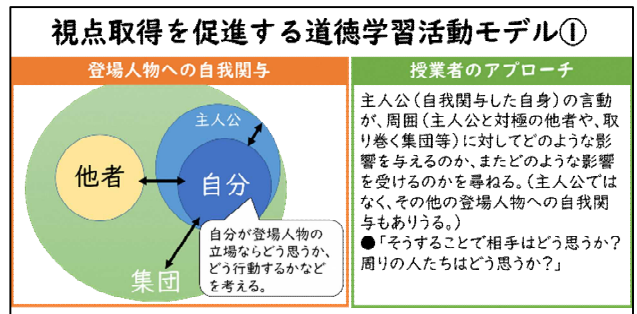
【補足資料】

「支持的基盤のある学級づくりにつながる
道徳授業の在り方に関する実践的研究」

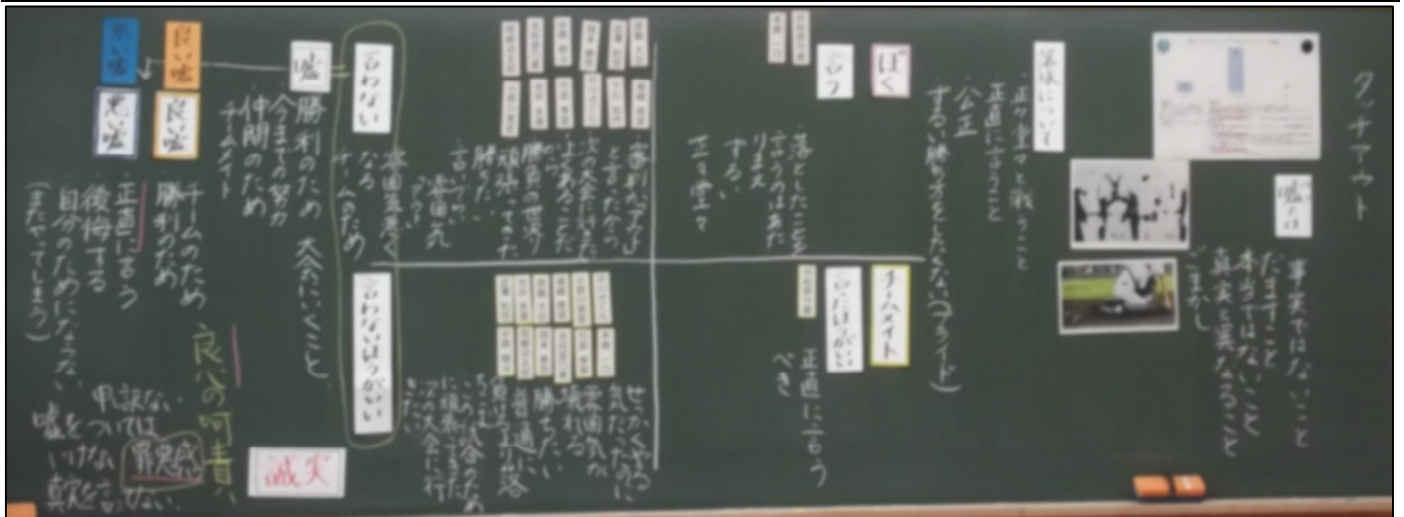
道徳授業指導案

視点取得を促進する道徳学習活動モデル①(「登場人物への自我関与」)を活用した学習指導案

- 1 主題名 「誠実な心で」【自主、自律、自由と責任】(A-1)
- 2 教材 「タッチアウト」
- 3 ねらい 自分の行動が及ぼす結果とその責任について深く考え、自分自身の誠実な心を見つめ直そうとする意欲を高める。
- 4 学習指導過程



	学習活動	主な発問 (○) と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 補助発問 (●)
導入	1、事前のアンケート結果を確認する。(3分)	○嘘とは？ということ？ ・偽り・だます・真実と異なること・ごまかし	・事前アンケートを取り、嘘をつくことに対する生徒の考えを把握する。 *事前に本文は読んでおく。
展開	2、あらすじを確認し、問題について考える。(3分) (1)ぼくの立場で考える。(7分) (2)チームメイトの立場で考える。(7分) (3)ぼくがこんなにも悩まなければならないのはなぜかを考える。(10分)	○あなたが僕なら落球のことを言いますか？言いませんか？(ネームカードを黒板に貼る) 【言う】 ・言わないことで後悔してしまうと思うから。 ・不正をして勝っても嬉しくないから。 【言わない】 ・勝ちたいし、誰も気づいていないから。 ・チームのために言わない。 ○あなたがもしチームメイトの立場なら言った方がいいと思いますか？言わない方がいいと思いますか？(ネームカードを黒板に貼る) 【言ったほうが良いと思う】 ・そんな勝利嬉しくないから。 ・相手も本気だから不正はしたくない。 【言わないほうが良いと思う】 ・今まで一生懸命練習してきた、目指していたものがあるから。 ○言わない、言わないで欲しいという嘘(真実をごまかしている)は良い嘘なのか、悪い嘘なのか。(意思表示をして理由を言う) 【良い嘘】 ・誰も傷つけてない・バレていない・チームの勝利に貢献したから 【悪い嘘】 ・相手があつてのことだから・不正だから	・ネームカードを黒板に貼らせ、意思表示をさせたらそれぞれそう考える理由を出し合う。その後、互いに質問をし合う。 ・立場を変えさせ、自分がチームメイトの立場ならどうしてほしいかを考える。それぞれ理由も述べ、それに対して互いに質問し合う。 ・ぼくの時においた札の位置とチームメイトとして置いた位置を確認する。 ●それぞれ何を大切にしているの？(10分) ●良い嘘ならなぜこんなに苦しむ必要があるの？悪い嘘というが佐藤君は気づいていないし、見送りにまできてくれているのに？ ●ぼくがこんなにも悩まなければならないのはなぜ？
終末	3、授業を通して考えたこと、思ったことをワークシートに記入して、交流する。(10分)	○「自分自身の誠実さと向き合った経験やその時の思いを書いてみよう」「今日の学習で学んだこと考えたことを書いてみよう」どちらかを自分で選んで書いて下さい。	・自分自身の経験を振り返って考えさせる。



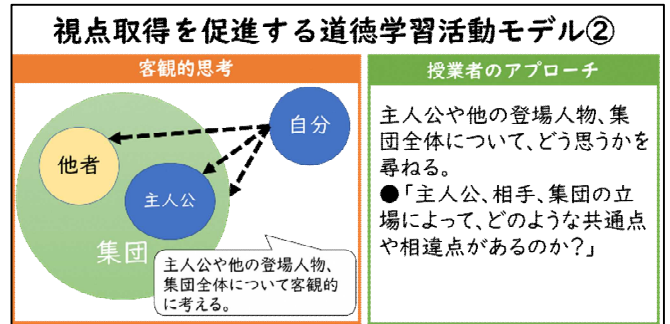
視点取得を促進する道徳学習活動モデル②(「客観的思考」)を活用した学習指導案

1 主題名 「いじめへの公正な態度」【公正、公平、社会主義】(C-11)

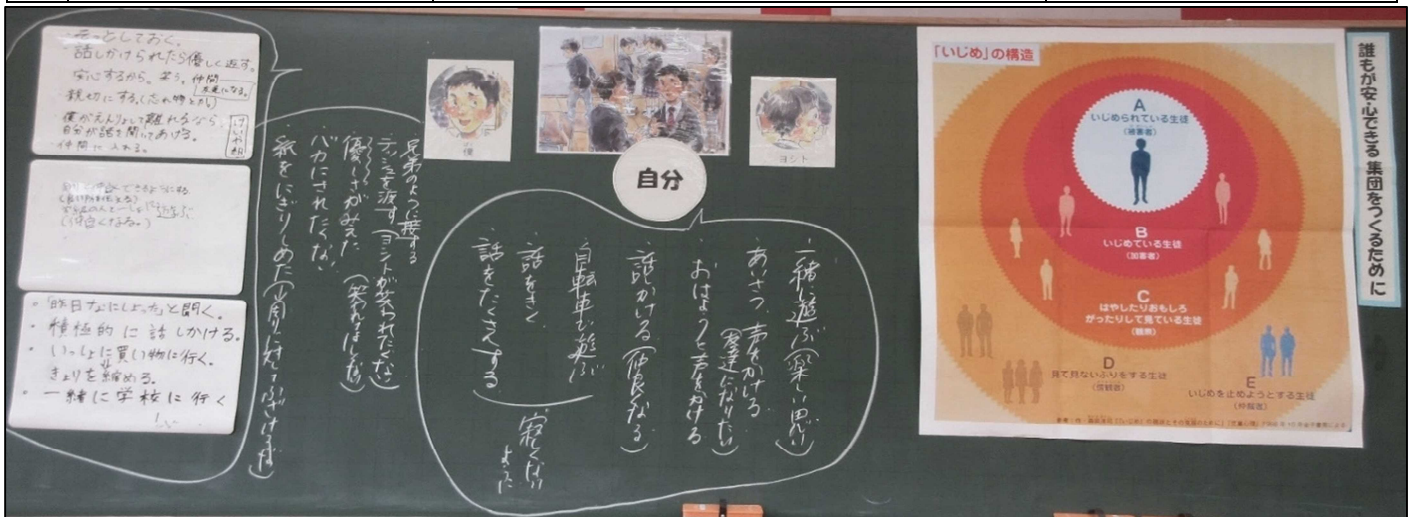
2 教材 「ヨシト」

3 ねらい 偏見を正し正義を貫こうと決意する主人公の姿に共感することを通して、正義を重んじ偏見や差別をなくしていこうとする態度を育てる。

4 学習指導過程

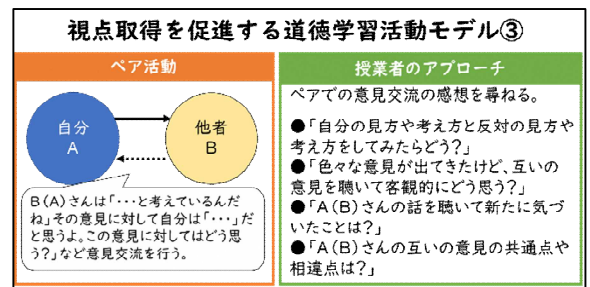


	学習活動	主な発問 (○) と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 補助発問 (●)
導入	1、前時を振り返る。(4分)	○「さかなのなみだ」を読んでいじめとは何か、いじめはなくならないのかなどを考えたよね。今日は、前の時間を思い出しながら考えて下さい。	・前時を思い出させる。生徒の感想を読んでよい。
展開	2、本文を読み、カッコいいな、こんなことできたらいいなというところを探す。本文音読 (3分) ペア・全体 (10分)	○この話を読んでみて、僕の行動で、こんなことできたらいいな、してみたいなと思うところがありますか？それはどこですか？なぜそう思ったのですか？ ・回ってきた紙切れを握りしめたこと。自分のところで悪い行動を断ち切っている。 ・周りの反応を気にしつつもヨシトに声をかけている。周りに流されることなく、自分のとるべき行動をとっているから。	・僕のプラスの行動を探させる。
	3、問題を自分のこととして考えて、自分ならどうしていきたいかを考える。個人 (2分) ペア (3分) グループ (5分) 全体共有 (10分)	○自分がこの学級の一員だったら、どんなことができたらいいなと思いますか？したいな、できたらいいなと思うことをできるだけたくさん出してみよう。(個人→ペア→班) ・ヨシトに声をかけたい・挨拶をする(「おはよう、ハイハイ」) ・「やめろ」という・ヨシトの良さをみんなに伝えたい ・話し合い・手紙を渡す・励ます ・一緒に遊ぶ・一緒にいる	・自分がこの場所にいたらどんなことができたらいい、したいと思うかを考えさせる。実際にしたいではなく、できたらいいなと思うことを挙げさせる。
	4、「いじめの構造」を再度見て考える。(5分)	○どうしてそうしたいと思いましたか？ ・やっぱり声をかけられると嬉しいと思うから。 ・こんなことはダメだと思うから。 ・支えになりたいと思ったから。 ・相手も自分も安心したいから。 ○今考えてきたのは、この図のどの当たりのことだろう？	●みんなが出してくれた「したいな」や「できたらいいな」を自分がしてもらったらどうですか？(3分) ・いじめの構造の図を再度示し、自分達が仲裁者の立場として考えていたことに気づかせる。
終末	5、この時間の振り返りをする。個人・全体共有 (8分)	○2時間続けていじめについて考えてきましたが、改めて、考えたこと、感じたこと思ったことをワークシートに書きましょう。	

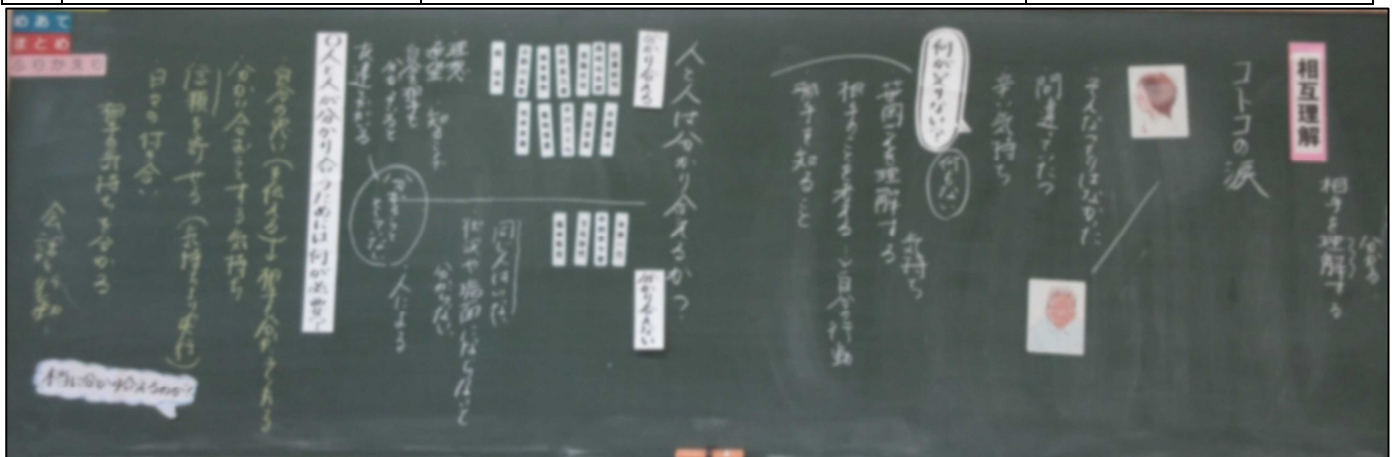


視点取得を促進する道徳学習活動モデル③(「ペア活動における意見交流」)を活用した学習指導案

- 1 主題名 「わかり合うこと」【相互理解、寛容】(B-9)
- 2 教材 「コトコの涙」
- 3 ねらい 人にはさまざまな考え方があることを理解し、自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他に学ぼうとする謙虚な態度を育てる。
- 4 学習指導過程



	学習活動	主な発問(○)と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 補助発問(●)
導入	1、相互理解とは何かを考える。	○相互理解って何だろう? ・互いに分かり合うこと。 ・お互いのことを思い合うこと。	・思うことを自由に出させる。
展開	2、本文を読む。(途中まで)	○泣きだしそうな顔とあるが、なぜコトコは泣きそうなの? ・反省の気持ち。 ・どうして怒られるんだらうかという気持ち。 ・そんなつもりじゃなかった。 ・悪いことなんてしていないのに…。	・教科書のコピーを配る。(途中までの印刷) ・コトコの気持ちをそれぞれ想像させる。 ●良かれと思ってやったのに悪いことなの? ●笹岡さんはどう思っていたのかな? ・一人で考えておいて、ペアで共有させる。
	3、コトコの気持ちを考えて、何が足りなかったかを考える。	○反省したってことは、何が足りなかったのだろうか? ・笹岡さんの気持ち。 ・相手のことを考えること。 ・相手の立場に立って考えること。	
	4、人との関わり合い方について考える。	○人と人は本当に分かり合えるんだらうか? 分かり合える ・分かり合えるから社会が成り立っている。 ・分かり合いたいという気持ちが大事。 分かり合えない ・世の中には合う人合わない人がいる。全ての人と分かり合うのは不可能。 ・どちらかが我慢している場合がある。	●相手のことを知っていたら人と人は分かり合えるの?
	4、人との関わり合い方について考える。	○人と人が分かり合うためには何が必要なんだらう? ・相手のことを分かろうとする気持ち。 ・互いに認め合う。 ・相手を思いやる気持ち。 ・相手を尊重する気持ち。 ・歩み寄り。	●この必要なことをしたら本当に分かり合えるの?
終末	5、自分なりの考えを持つ。	○物語の続きを読む。	・全体で共有する。



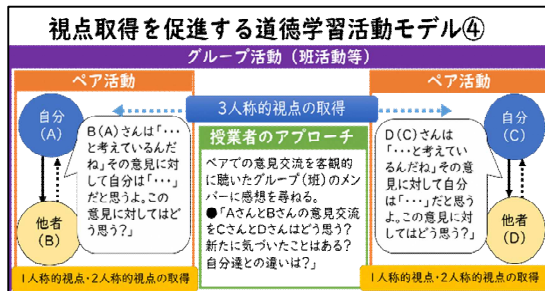
視点取得を促進する道徳学習活動モデル④(「グループ活動における客観的意見交流」)を活用した学習指導案

1 主題名 「目標に向かって」【よりよく生きる喜び】(D-22)

2 教材 「ロスタイムのつづき」

3 ねらい 挫折に絶望することなく、理想を求め、人生を意欲的に豊かに生きようとする実践意欲を培い、また目標を持ち、希望をもって困難を克服していこうとする態度を育てる。

4 学習指導過程



	学習活動	主な発問(○)と予想される児童生徒の反応	指導上の留意点 補助発問(●)
導入	1、三浦知良と中田英寿の生き方を確認する。(5分)	○この二人の生き方について確認しておきましょう。 (黒板にそれぞれの生き方の特徴を示す)	・事前に教材は読んでおき、カズとヒデについても触れておく。 ・ネームカードを黒板に貼っておく。
展開	2、どちらの生き方に憧れるか選び、その理由も述べる。(25分)	○自分の選んだ人の生き方の魅力は何ですか。グループで相手チームにその魅力が伝わるようにたくさん魅力を出し合ひましょう(グループ)。 【三浦知良】 ・一つのことを極めている ・自分の引き際を考えている ・生涯現役にこだわっていることがカッコいい ・50を超えて夢を追いかけしているところ 【中田英寿】 ・次のことにチャレンジする精神 ・違う自分の可能性を追い求めているところ ・色々プロデュースして稼いでいる ・多才なところ	・グループから1名、他グループにいき、そのグループの話合いを聴き、話合いの内容を自分のグループに伝える。その際の視点としては、カズ(ヒデ)の魅力の説明に対して反論の意見を自分のチームに伝える。 ・それぞれの魅力に対しての反論や質問を出し合い、それに対して答える。 ●自分の好きなことやけど、ピークを過ぎてでも続けて得られるものってあるの? ●新しいことにチャレンジしてもその先に今のような栄光があるとは限らないのには? ●努力したら絶対報われるの? 努力しても叶えられないものってあると思うけど?
	3、2人の生き方の共通点を探す。(10分) 4、2人の生き方から自分が考える生きていくうえで大事にしていきたいことを考える。(5分)	○2人の生き方に共通するものって何だろう?(全体) ・自分を信じている・強い意志と気持ち・後悔していない・前向き・向上心・挫折から這い上がる強さ ・諦めない気持ち・挑戦する勇氣・目標や目的がある ・自分を知っている・自分を大事にしている・世界を知っている ○あなたが生きていくうえで大事にしていきたいことはなに?(個人→ペア・グループ)	
終末	5、授業を通して考えたこと、思ったことをワークシートに記入して、交流する。(5分)	○友達の考えを聴いて、気づいたこと考えたこと、思ったこと感じたことをワークシートに記入して下さい。	・友達の意見に対して共感したこと、疑問に思ったことなどを踏まえて書かせる。

